

無所属 西東京市議会議員

森てるおの なんでもりポート

第33号



2006年7月発行（隔月発行） 定期購読料：年間1,000円（送料含む）
編集：森てるお事務所 発行：森てるおと市民の目 西東京市北町3-4-5 042-424-3410

36m道路（都市計画道路3・2・6号調布保谷線）現況報告

次第にその全貌を現しはじめた都市計画道路3・2・6号調布保谷線。予定地を切り開いて彼方に伸びる広い空間に、凶暴な姿をイメージできる人はそれほど多くありません。

アワズメント（合ワズメント）と揶揄される環境アセスメント（環境アセス）では、環境基準値をわずかに下回る結果が出るように交通量が設定されます。ご多分に漏れず調布保谷線でも。ところが調布保谷線ではこの度、この交通量がアワズメントの産物であることが露見しました。

今年度策定された「多摩地域における都市計画道路の整備方針（第三次事業化計画）」で使われた交通量予測が、調布保谷線の環境アセスの予測数値をはるかに超えていることがわかったのです。交通量の増加は排ガスや騒音の増加に直結します。すれすれで合格していた環境アセスは不合格になります。本来ならやり直しが必要になります。

もともと、調布保谷線の環境アセスは条件設定が不備だとして、市民からやり直しが求められていました。開通時には、並行して近隣に建設される予定の外環状道路（外環）が完成していると想定されていますが、実際には外環の見通しはまだ不透明です。外環が完成しているか未完成かによって交通量は大きく変わってきます。ところが外環完成の見通しが立っていないにもかかわらず、東京都は環境アセスのやり直しはしないと張りつめています。新たに露見した想定交通量の大幅な増加とあわせて、環境アセスのやり直しをするのが行政（東京都）としての最低限の責務だと考えます。

第3次事業化計画での予測でも、外環は完成しているものとされており、調布保谷線の開通による環境への悪影響が市民生活を直撃する悪夢が現実味を帯びてきています。

事務所を移転

3年間、作業場兼物置に使ってきた事務所を退出しました。大家さんが老朽化したアパートの経営をやめるといので、やむを得ません。たいした荷物があるわけではないものの、何せ8年分の書類の山です。梱包し、搬送し、開梱して整理するのが一苦勞です。

新しい事務所はこれまでよりいくらか狭いものの、作業場兼物置としてみれば立派なものです。これまで以上に有効活用していこうと考えています。

夏が終われば、12月に市議会議員選挙があるために、議会の日程が前倒しで目白押しになります。国の軍事化の動きも共謀罪、自衛隊省昇格、米軍再編、教育基本法改正、国民投票法等々、重大な局面を迎えることとなります。

しっかり、したたかに平和と市民生活を豊かにしていくためにがんばりましょう。そのための有効活用です。

連絡先（郵便、電話、FAX等）は、当面の間、森てるお自宅（西東京市北町3-4-5：042-424-3410）へお願いします。



調布保谷線建設予定地：下保谷1丁目
まだ新しかった家も取り壊された。

行政視察報告（滋賀県彦根市・近江八幡市のまちづくり）

7月3日から4日にかけて建設環境委員会で滋賀県の彦根市と近江八幡市に視察に行きました。視察項目は「自転車のまちづくり（彦根市）」「近江八幡市風景づくり条例」の2点。

彦根市では市民による「彦根市エコ²自転車とまちづくり委員会」を立ち上げ、その提言を受けて道路の補修、駅前駐輪場設置、自動車利用からの転換などの施策を行なってきた。市域が広く（98.15Km²、西東京市は15.85Km²）自動車利用からの転換はなかなか進まないということでしたが、確かに移動の車中から、長～い道路に車が1～2台という光景を次々見て納得しました。人口（11万人）が少ない中でも、西東京市同様、駅前の放置自転車対策が求められていました。10kmから50kmまでの5本の推奨サイクリングルートもあり、政策への意欲を感じました。

西東京市は人口密度の高い小さな町です。取り組みいかんによっては、彦根市以上に自転車のまちづくりが可能だと感じてきました。駅前放置自転車に象徴される「厄介もの」扱いから、よりいっそう有効な交通手段にするような政策転換が求められます。

近江八幡市の風景づくりは近江商人発祥の地という歴史を残す八幡堀の修景保存運動（昭和40年代）を起源にしているそうです。2004年の景観法の制定に合わせて「近江八幡市風景づくり条例」を準備し、市域を6つのゾーンに区分けした構想を打ち出しました。その最初の取り組みとして「近江八幡市風景計画（水郷風景計画編）」を決定しています。これは景観法に基づく景観計画の第1号であり、文化財保護法に基づく全国第1号の重要な文化的景観に選定されました。

歴史あるまちに暮らす自負が風景づくりへの市民の合意となって現れたものと推測されます。近江商人を生み出した「先取の気象」（意味は気性で気象と書くそうです）が歴史あるまちの保存に有効な作用をもたらしているようです。また、あくまでも住む人が快適に暮らすための風景づくりだとも強調されていました。

巨大都市東京の周縁に位置し、土地の財産価値が高く、1年間に人口の1割が入れ替わる非定住性などの特徴を持つ西東京において、どんなコンセプトでまちづくりをするのか、それこそ、住む人の快適性をどのように測り位置づけていくのか、長大な作業になるな、けどやりようはあるぞと感じてきました。



森てるおのお料理メモ

ひじきとにんじん、しめじの寒天寄せを作ってみた。ところが、こどもたちには評判が悪い。なにせ我が家はもっぱらデザート寒天。甘くない寒天料理はメニューになかった。しかし、今トレンディだけでなく、寒天料理は懐が深い。「うならせてやる！」と、ひそかに腕を磨いている。

- ① ひじきを水に戻し、にんじん、しめじと一緒に薄味に煮あげる。
- ② お澄まし程度の味をつけた出汁に、煮溶かした寒天を加えて荒熱を取る。
- ③ ①の具に②を混ぜ合わせてバットにいれ、冷めたら冷蔵庫に入れて冷やし固める。味と硬さはお好みで。

◎森てるおの活動記録（2006年5～6月）

※主なものを掲載しています。

5月3日	ポスティング（次議会まで）	6月2日	議会開会（～16日）
6日	スタッフ会議	3日	スタッフ会議
7日	水防訓練	5日	一般質問（～8日）
8日	全員協議会 駅頭（～19日）	6日	森・一般質問 共謀罪シンポジウム
9日	住基ネット訴訟	8日	議会運営委員会
13日	石川島跡地地区計画住民相談	9日	立川市議選応援（15・17）
14日	井戸端会議	11日	井戸端会議
18日	住民監査意見陳述	12日	建設環境委員会
22日	土地開発公社	13日	駅周辺再開発等特別委員会
23日	駅周辺再開発特別委員会	14日	道路訴訟打ち合わせ
24日	都市計画審議会	16日	議会最終日
27日	森てるおと市民の広場（～28日）	30日	保谷駅南口住民訴訟提訴
30日	議会運営委員会		